

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期西栗倉村地域未来交付金計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

岡山県英田郡西栗倉村

3 地域再生計画の区域

岡山県英田郡西栗倉村の全域

4 地域再生計画の目標

本村の人口は、1990年の1,939人をピークに減少しており、住民基本台帳によると2025年末には1,297人まで落ち込んでいる。国立社会保障・人口問題研究所によると、2050年には総人口が1,040人となる見込みである。

年齢3区分別人口では、1980年以降、15歳未満の人口は1990年の359人をピークに、15～64歳の人口は1980年の1,249人をピークに減少し続けていることに加え、65歳以上の高齢者も2000年の600人をピークに緩やかに減少しており、1995年以降は全体として減少傾向が継続している。

自然動態をみると、出生数は2007年の16人をピークに減少し、2025年には7人となっている。その一方で、死亡数は2006年の35人がピークであり、近年は20～30人で推移している。2025年の出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲16人（自然減）となっている。

社会動態をみると、2024年には転入者（39人）が転出者（30人）を上回る社会増（9人）であった。一方で、2025年には▲18人の社会減となっており、社会減の年が多くなる傾向にある。このように、人口の減少は出生数の減少（自然減）や、転入者の減少（社会減）等が原因と考えられる。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。

これらの課題に対応するため、村民の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現を図り、自然増につなげる。また、移住を促進するとともに、安定した雇用の創出や

地域を守り、活性化するまちづくり等を通じて、社会減に歯止めをかける。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

基本目標 1 挑戦の村であり続けるための『しごと』づくり

基本目標 2 生きるを楽しむを実現できる『ライフスタイル』の提供

基本目標 3 村の個性を発揮し続けるための『未来への投資』の実行

基本目標 4 村全体の生活の基盤としての「守りの施策」

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	地域内での起業・新規事業創出数（累計）	23件	36件	基本目標 1
ア	村外企業・団体との連携数（協定締結等）	6件	11件	基本目標 1
ア	観光入込客数	26.3万人	28.3万人	基本目標 1
ア	関係人口アプリ登録者数	2,205人	2,460人	基本目標 1
ア	ふるさと納税における村内産品・サービスの流通額	3,900万円	4,400万円	基本目標 1
イ	家事支援サービスの登録数	1世帯	20世帯	基本目標 2
イ	空き家に関する補助金の活用件数	3件	4件	基本目標 2
イ	あわくら会館におけるイベント開催数	120回	135回	基本目標 2
イ	1週間の運動時間が420分以上（小学生・中学生）の割合	33%	50%	基本目標 2

ウ	村出身者のSNSコミュニティ参加人数	54人	84人	基本目標 3
ウ	村内の電力によるCO2排出量	3,089t-CO2	2720t-CO2	基本目標 3
ウ	地域の人に参加した小中学校の活動及び授業数	75回	90回	基本目標 3
エ	一人当たり国保医療費	36,713円	基準値以下	基本目標 4
エ	高齢者の社会参加率（週1回以上仕事や地域活動に参加している割合）	37.2%	43%	基本目標 4
エ	放水訓練における消防団各班における水出し成功率	90%	100%	基本目標 4
エ	水道の管路更新率	0%	10.9%	基本目標 4
エ	職員と村民の意見交換の機会	12回	6回	基本目標 4
エ	実質公債費率	14.1%	14.8%	基本目標 4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 及び 5-3 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生交付金（地域未来交付金（地域未来推進型））の活用（内閣府）：【A3017】

① 事業の名称

生きるを楽しむ百年の森林に育まれたむら事業

ア 挑戦の村であり続けるためのしごとづくり事業

イ 生きるを楽しむを実現できるライフスタイルの提供事業

ウ 村の個性を発揮し続けるための未来への投資の実行事業

エ 村を支える基盤事業

② 事業の内容

ア 挑戦の村であり続けるためのしごとづくり事業

これまで培った林業の基盤を維持・発展させるとともに、ローカルベンチャーの育成や村外企業との連携を深めることで、多様な雇用と挑戦の場を広げるとともに、施設整備やデジタル活用による観光振興も並行し、仕事の選択肢を増やすことで活力ある「挑戦の村」を持続可能な形としていく事業

【具体的な事業】

- ・ 基幹産業への支援
- ・ 事業の創出と拡大
- ・ 観光と交流の促進 等

イ 生きるを楽しむを実現できるライフスタイルの提供事業

西栗倉村らしい豊かな暮らしを支えるため、日々の生活の基盤となる子育てや住まいへの支援に注力するとともに、自然もあり多様な人材がいる村の特徴を活かして、健康づくり・スポーツ・文化といった、生活に豊かさをもたらす生涯にわたる学びの環境を提供していく事業

【具体的な事業】

- ・ 子育て支援
- ・ 多様な住まいの確保
- ・ 生涯学習 等

ウ 村の個性を発揮し続けるための未来への投資の実行事業

持続可能な西栗倉村を形作るためへの人・教育という村の基盤に加えて、村の特色となる再生可能エネルギーや生物多様性といった先進事例となるコンテンツに投資をしていく事業

【具体的な事業】

- ・ IU ターン促進・村の PR
- ・ 脱炭素・生物多様性保全
- ・ 教育・保育 等

エ 村を支える基盤事業

日々の暮らしを守る「村を支える基盤」として、未病を含む統合健康管理や、災害時に孤立しないための防災体制を構築や、老朽化するインフラの計画的な更新を進めるとともに、将来にわたって村を支えるため

に、健全な財政運営と効率的な行政組織運営を行う事業

【具体的な事業】

- ・健康・福祉
- ・地域基盤
- ・持続可能な行財政運営 等

※なお、詳細は地方版総合戦略を兼ねている西栗倉村第6次総合振興計画(後期)のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標(KPI)）

4の【数値目標】に同じ。

④ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度2月頃に有識者による評価・効果検証を行い、その結果を村ホームページにて公表する。

⑤ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2031年3月31日まで

5-3 地域未来交付金（地域未来推進型）の活用（内閣府）：【E2001】

① 事業の名称

5-2の①事業の名称に同じ。

② 事業の内容

5-2の②事業の内容に同じ。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標(KPI)）

4の【数値目標】に同じ。

④ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

5-2の④事業の評価の方法（PDCAサイクル）に同じ。

⑤ 事業実施期間

5-2の⑤事業実施期間に同じ。

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2031年3月31日まで